

令和3年度 白川郷学園体育・保健体育科研究構想

【体育・保健体育科での児童生徒の実態】

- 運動することに興味をもち、一生懸命取り組む児童生徒が多い。
- 勝ち負けにこだわって活動することができる。
- △基礎的な運動能力が低く、ボール操作や器具操作のように多様な運動感覚が求められることが苦手な児童生徒が多い。
- △課題解決に向かう意識が弱くなりやすい。
- △学んだことや、体感をもとにして、言葉で振り返る力に弱さを感じる。

【学校教育目標】

ひとりだち

自立 共生 貢献

【体育・保健体育科で今後求められるもの】

- ・生涯にわたって、進んで運動やスポーツに親しもうとすること。
- ・目指す動きができるようになるために、習得した知識や技能を活用して、粘り強く活動できること。
- ・仲間と上手に関わりながら活動することで、自分や仲間の上達を実感し、次の活動のエネルギーをもつことができること。

【白川郷学園で求められる児童生徒像】

- ①自立・・・意欲的に学び、より質の高いものを自ら求め続ける子
- ②共生・・・対話的に学び、仲間と協力して活動する子
- ③貢献・・・深く学び、仲間・地域のために行動する子

【研究主題】 「先を読む力」を発揮し、学びを加速させる姿を目指して

【全教育活動を通して育てたい資質能力：先を読む力】

先を読む力とは、児童生徒が主体的に問題解決の方法を生み出していく力である。この力は、教師が手立てを与えすぎの中では培われることはない。全教育活動を通して、児童生徒が、これまでに身に付けた既習内容や生活経験、様々な見方・考え方を駆使して、仲間との対話をしながら試行錯誤する営みを繰り返す中で、培われるものであると捉えている。

【体育・保健体育科で願う子どもの姿（「先を読む力」を発揮している姿）】

目指す姿やできるようになりたい動きを明確にもち、その実現に向けて練習方法を選択・工夫したり、相手や仲間の動きを予測し、それに応じた動きを決め出したりして、試行錯誤しながら活動している姿。

【研究内容・具体的な手立て】

(1) 主体的に問題を見いだす導入の工夫	(2) 自ら解決方法を生み出す学習活動の工夫	(3) 自己の学びを自覚する終末の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・ 示範や動画等と目指す姿を比較したり、活動していく中で見出した児童生徒の思考や欲求を大切にしたりするなど、実態に合った必然性のある課題設定。 ・ 個人種目においては、個人の目標を設定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 練習方法を選択したり、工夫したりできる指導計画や場の設定。 ・ 効果的に自己や仲間の動きを見つめ、動きを修正しようとしてできる場の設定（作戦タイムの使い方工夫・技能上位者の動きを自由に見に行ける場 など）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1時間の学びを自他共に自覚できるようにする（個人種目）のために、毎時間ミニ発表会を設定。 ・ 1時間の学び（成長、変化、困難、要因、仲間の働きかけ等）を視点に、話す場の設定。

第9学年 保健体育科学習指導案

日 時 令和3年9月17日(金)
場 所 後期体育館
授業者 乾 貴之

1 単元名 球技 ネット型 「バドミントン」

2 本時のねらい (6/12)

低くて速い軌道の返球を身に付けるために練習方法を工夫したり、自分なりにつかんだコツを伝え合ったりしながら、動きを修正することができる。

本時における「先を読む力を発揮して、学びを加速させている姿」
低くて速い軌道の返球をするための練習方法を工夫しながら試している姿や、練習の中でより速く、低い軌道にするためにどうしたらよいかを考えながら動きを修正している姿。

3 本時の展開

過程	主な学習活動	指導・援助(・) / <研究内容>
導入	<p>1 準備・準備運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームごとに準備運動をする。 ・既定練習(素振り→ペア打ち(近く→遠く)) <p>2 全体会 ～前時の学習から～</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">ねらった場所に打ち分けることはできているが、シャトルの軌道が高いため、落下点に入る余裕があり、相手が返しやすい返球になっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の振り返り(授業内や個人ノート)やVTR(その場面を撮ることができれば)から、実態を確認する。 →もっとネットに近い低い軌道で返球したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技能の定着状況に応じてグループで考えた練習方法を準備運動にすることで、学習意欲の向上と技能の定着を図る。 ・練習のペアの決め方を常に考えるようにすることで、チーム全員の技能向上に意識が向くようにする。 ・前時の生徒の様子や、振り返りから気付いた「低くて速い軌道の返球の大切さ」を取り上げることで、生徒の思考に沿った必然性のある課題を設定する。<研究内容1> ・前回の授業の、チャンスボールも山なりで返球している様子の動画を示すことで、実態を具体的に理解できるようにする。<研究内容1> ・インパクト時のラケットの面の向き、ラケットを振り切ること、落下点との位置など、動きを追求するための視点を示すことで、見通しをもって活動できるようにする。 ・「低くて速い軌道の返球」を練習する方法を自分たちで考えることで、意欲や課題意識を高くもちながら練習に取り組むことができるようにする。<研究内容2> ・練習の中で効果的なポイントや感覚をつかんだ生徒を取り上げることで、技能上達の足掛かりをもてるようにする。<研究内容2> ・積極的にアドバイスをすることを促すことで、仲間の動きを観察したり、自分の動きを見つめたりすることができるようにする。 ・今日の活動を、ゲーム記録や事実から振り返ることで、本時の学びを明確に自覚することができるようにする。<研究内容3> ・全体の振り返りの中で、仲間の発言に関わらせながら自由に話させることで、主体的に学びを語り合い、生徒の思考に沿った課題を見出すことができるようにする。<研究内容3>
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <p>学習課題 低くて速い軌道の返球をおりまぜて攻めよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・示範から低くて速い軌道の返球のイメージをもつ(ドライブ・スマッシュ) <p><低い軌道で打つためにポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラケットにシャトルが当たる時の面の向き ・ラケットを振り切る ・落下点よりやや後方に下がった場所で打つ <p>3 グループ計画会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ練習の方法を考える。 ※フラフープをネット上部あたりで持ち、その中を通す練習 ※紐を張り、その下を通す練習 ※ラケットで高さを示し、その下を通すような練習 <p>4 グループ練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低くて速い軌道の返球をするためにグループで考えた練習を行う。 ・共有したい感覚(コツ)があれば中間研究会を開き共有する。 	
終末	<p>5 確かめのゲーム(シングルス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低くて速い軌道の返球で攻めることを織り交ぜた対戦ゲームを行う。 <p>6 グループ反省会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動について振り返り、上手く出来た点や課題点を話し合う。 <p>7 全体会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の成果を話し合い、できたことや今後の課題などについて全体で共有する。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【評価規準】 効果的な練習方法の提案やアイデアを出したり、低い軌道にするためのコツや仲間へ修正点を伝えたりしながら活動することができる。 【思考・判断・表現】(発言)</p> </div>

4 単元のねらい

知識及び技能	相手が返球しにくい攻撃をするためには、返球する場所や高さ、強さを工夫することが大切であることを理解することができる。また、状況に応じて強く返球したりねらって返球したり、安全に返球したりと、その場に応じた返球をすることができる。
思考力、判断力、表現力等	課題解決に向けて練習方法を提案したり工夫したりすることができる。また、体の使い方やラケット操作など、気付いたことやつかんだ感覚などを、言葉や動きを使って仲間に伝えることができる。
学びに向かう力・人間性等	授業の規律やバドミントンのルールを守りながら一生懸命活動したり、話し合いの時や練習中に考えたことを積極的に話したりしながら、仲間と共に上達を目指して活動することができる。

5 本單元における「先を読む力を発揮して、学びを加速させている姿」



ネットの上にゴムを張ったり、フラフープを持って、その中を通したりするような練習をしたら、低い軌道の攻撃ができるようになるんじゃない？
 もっと手首を使って打った方が速くて低い球を打てるんじゃない？
 私もそんな風に打ちたいんだけど…。どうやったらそんな風に打てるの？教えて。

6 指導計画

時	学習課題	ねらい
1	バドミントンの授業の進め方を理解しよう。	学習のねらいや授業の進め方を理解することができる。 【知識・技能】
2	サーブを打ったり、ラリーを続けたりすることで、昨年度学習した内容やラケット操作の感覚を思い出そう。	サーブの打ち方やラリーを続けるためにどのような返球をするのがいいかを思い出し、既習事項を足場に声をかけ合いながら活動することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】
3	試しのゲームを通して、どんな打球が返球しにくいのかを知ろう。(試しのゲーム)	どんな攻撃が返球しにくいかを考えたり感じたりしながら試しのゲームを行うことで、今後の学習の見通しをもつことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】
4	スペースをねらった返球をおりまぜて攻めよう。	ねらいを定めるための方法(面の向き)やコントロールを付けるための練習方法を考え、お互いにアイデアを出したりアドバイスをしたりしながら活動することができる。 【思考・判断・表現】
5		どんな場面だとねらって返球しにくいかをチームで分析し、それを克服する練習をすることで、より多くの場面でねらった場所(スペース)へ返球することができる。 【知識・技能】
6 (本時)	低くて速い軌道の返球をおりまぜて攻めよう。	低くて速い軌道(ドライブ・スマッシュ)で返球するための練習方法を考えたり、低く打つためのポイントをアドバイスしあったりしながら活動することができる。 【思考・判断・表現】
7		ドライブやスマッシュの打つべきタイミングを判断し、チャンスの時に低くて速い軌道の返球で得点することができる。 【知識・技能】
8	相手にチャンスにならないサーブが打てるようになるよう。	山なりサーブだとすぐに強打で返されることに気付き、強打が返されにくいようなサーブを考え、その練習をすることができる。 【思考・判断・表現】
9	強化したいポイントを決めてチームの力を高めよう。	チームで強化したいポイントを決めて、その課題解決に向けてこれまでの練習方法を生かしながら工夫し、チーム全員で力を高めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】
10		
11	リーグ戦	身に付けた技能を駆使して、勝ちを目指しながらゲームをすることができる。 【知識・技能】
12		